

# 派遣留学生帰国報告書

\* 帰国(復学)後の情報を入力してください

記入日	2018年6月28日
所属学部	園芸学部
所属学科・専攻	食料資源経済学科

## 1. 留学先について

留学先大学名	タミルナドゥ農業大学										
留学先所属学部等	農業経済学部										
留学期間	出発日	2017/8/17	入学日	2017/8/18	修了日	2018/6/11	帰国日	2018/6/18			
住居	<input type="radio"/> 大学(紹介)の寮・アパート		<input type="checkbox"/> 民間アパート		<input type="checkbox"/> その他( )						
	通学時間	5分				On campus					
	通学方法	徒歩、自転車									
	居室スペース	個室	<input checked="" type="checkbox"/>	( 4 )	人部屋	その他( )					
	共有スペース	完全個室	<input checked="" type="checkbox"/>	キッチン	<input type="checkbox"/>	トイレ	<input type="checkbox"/>	バス	<input checked="" type="checkbox"/>	リビング	<input type="checkbox"/>
食事	自炊	70 %	学食	0 %	外食	30 %	その他	( ) %			
保険	海外旅行保険(名称)	OSSMA付帯型セット保険「タイプA」									
	派遣先大学指定の保険(名称)							<input type="checkbox"/> 強制加入			
	その他										
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウイスコンシン(電車)										
	成田 ⇄		コロンボ(飛行機)			⇄			コインバトル(飛行機)		

## 2. 留学にかかった費用について

総費用	740,000 円						
出どころ							
自費	貯金	円	アルバイト	円	その他	円	
援助	両親	円	家族・親戚	円	その他	円	
奨学金	<input checked="" type="checkbox"/>	JASSO	660,000 円	その他名称( )	円		
その他	<input checked="" type="checkbox"/>	千葉大学助成金	100,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	その他( )	円	

## 2-1. 財政管理の方法

渡航時	✓	現金	10,000 円	その他( )	円
留学中		海外送金	キャッシング	その他(インターネットバンキング及び国際キャッシュカード)	

## 2-2. 各費用の支払い方法

大学に払った費用	現金(国際キャッシュカードを使いATMから)
住居にかかった費用	現金(国際キャッシュカードを使いATMから)
その他	

## 2-3. 内訳

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)			91,900	円
海外旅行保険			121,450	円
OSSMA			29,160	円
査証・在留許可証			12,000	円
住居	インドルピー	16,000	25,796	円
食費	インドルピー	100,000	161,200	円
通学に要する交通費				円
教科書、教材費				円
その他大学に支払った経費				円
光熱費				円
その他 (フィールドワーク車代)	インドルピー	4,500	7,255	円
その他 (旅行代)			290,000	円
その他 ( )				円
その他 ( )				円

## 3. 学業面

履修科目名	種類 <sup>ex.正規、聴講</sup>	単位数	単位互換認定申請の有無		
			有	✓	無
1 Production Economics and Farm Management	聴講	3	有	✓	無
2 Agricultural Finance and Insurance	聴講	3	有	✓	無
3 Agricultural development policy analysis	聴講	2	有	✓	無
4			有		無
5			有		無
6			有		無
7			有		無
8			有		無
9			有		無
10			有		無

## 3-1. 授業科目の選択、登録方法

聴講だったため、単位取得用の申請とは異なると思いますが、私の場合は授業リストを渡航前に大学からおくっていただき(1枚のwordファイルでした)、そこから聴講したい講義を選び、聴講したい旨を記したrequest letterを自分で作成し、担当教授のサインをそのletterに書いてもらって、そのあと学部事務局、大学院事務局に提出、許可が下り次第その手紙をもってその講義の担当教授のところへ行って直接お願いするという流れでした。

## 3-2. 授業内容、方法に関して

基本的に板書と口頭での説明が多かったです。先生によってはパワーポイントを使う先生もいるみたいです。(私の取った授業ではパワーポイントはありませんでした。)その授業用のテキストが用意されていることもあります。授業は板書は英語ですが、講義自体は半分英語半分タミル語くらいの割合になっていました。試験は英語です。個人的には板書が少なくタミル語の部分は理解できなくて難しさを感じました。

### 3-3. 語学力について

基本的に英語だけで学校生活は足りました。大学にいる学生さんおよび教授は英語が話せますし、職員の方も簡単な英語は使えます。事務手続きもすべて英語でできました。授業ではタミル語も必要かと思うときもありましたが、英語で説明をお願いすれば学生や先生は英語で教えてくれます。逆にタミル語の必要性をあまり感じず、タミル語の講座なども開講されていなかったため、タミル語を学ぶ機会はあまりありませんでした。私は結局挨拶程度しかタミル語は話せるようになりませんでした。タミル語を習得するには大学でのサポートはないので、友人に教わる、本を買うなど自分での努力が必要だと思います。

### 3-4. 図書館など学内施設について

大学図書館は学生証をもっていけば使うことが出来ます。ただ荷物は全部持ち込めず、特に論文などは中に持ち込めないようになっていきます。中には農業関係の書籍を中心に雑誌や新聞も含めたたくさんの書物があります。貸出は利用しなかったのでもわかりませんが恐らくできると思います。図書館内のPCルームのパソコンはインターネットが使えます。

### 3-5. その他

## 4. 生活面

### 4-1. 住居について

この大学の学生はほぼ全員寮に住みます。私は留学生寮に住んでいました。寮はキッチンとリビングが共用でそれと別にトイレ・バスルームのついた個人部屋があります。キッチンには浄水器、冷蔵庫、IHクッキングヒーター、電子レンジが置かれています。それ以外は自分たちで準備しなければなりません。タイミングが合えばルームメイトと一緒に調理器具が使えらると思います。個人部屋には机、いす、ベット、クローゼット、洗面台があります。シャワーはないので水をバケツに汲んでお風呂は済ませます。エアコンはなく天井にあるシーリングファンを使います。Wi-Fiは寮にはありません。洗濯機は用意されていないので、自分で買うか手洗いになります。私は手洗いしていました。留学生寮は男女共用で特に私は最後ほかに女子がいない期間が3ヶ月ほどありました。留学生はほとんどが大学院生でかなり年上の方が多かったです。

### 4-2. 食生活について

学食は農業経済学部棟からあるいて5分ほどのところにあり、かなりメニューは限られますが、100円以下ほどで食事ができます。私は学部棟から遠かったこともあり食堂はあまり使わずお弁当を持参していました。カフェテリアも食堂近くにあってお茶やジュース、お菓子や日用品が購入できます。私は学部棟近くにあったティーショップ(露店)をよく利用していました。外食しても安いのですが、私が辛い料理が苦手なのと、食べられる料理の種類が少ないこともありほぼ自炊でした。スーパーマーケットが近くにあり、また野菜屋さん、鶏肉屋さんもあったので自炊車があれば買い物には不自由しませんでした。肉類は鶏肉、マトンが中心で豚肉、牛肉屋さんもあります。牛肉は水牛肉です。魚屋さんもありますが基本的に川魚です。休日にはファーマーズマーケットに行って野菜を買ったりもしました。ファーマーズマーケットでは新鮮で安い野菜が買えます。食費はとにかく安く済みました。日本の調味料はほとんど手に入りませんが醤油だけは売っていました。外食はベジタリアン料理しか出さないベジレストランとお肉やお魚も食べられるノンベジレストランがあります。南インド料理、北インド料理、アラビア料理、イタリアン、中華、ファストフードが多かったです。外食すると辛い料理はほぼないです。露店でもスナックや南インド料理を売っています。私は露店の物を食べても水を飲んでもおなかをこわすことはありませんでしたが、衛生状態はあまりよくないので気になる人は気を付けた方がいいかと思います。心配であれば水は持参するのがいいと思います。

#### 4-3. インターネット環境、携帯電話について

インターネット接続は大学構内はものすごく悪いです。Wi-fiゾーンが図書館前にありますが、私は結局パスワードは聞けたものの何か別の問題で接続できませんでした。学部棟内など建物内は基本的に携帯の電波も届かずオフラインの場所が多かったです。職員用のWi-Fiを私は利用させてもらっていましたが、それもしばしばつながらない時がありました。SIMカードは私の場合は友人が購入してくれたので詳しいことは分かりません。外国人が買うと手続きが面倒だという話も聞いたので現地の人に相談するのが安全かと思います。インドでも安い携帯電話は買えます。ただそれが日本で使えるかどうかは分かりません。私は日本で買ってから行きましたが、できれば今持っている携帯をSIMフリー携帯にしてから行くのが一番楽だと思います。

#### 4-4. 服装について

南インドは伝統的な衣装を着る文化が北と比べて強いです。男性はTシャツやシャツに長ズボンというスタイル、女性はサリーやクルタが多いです。大学にはクルタで登校する学生がほとんどだったのでクルタを着て学校に行っていました。1年中30℃前後の温暖な気候なので長袖はあまり必要ありませんが、冷房がきつかったり、標高の高いところに行く時用に少しはもっていくのがいいかと思います。男性女性とも露出はあまり好まれないのでショートパンツなどははかないほうがいいかと思います。

#### 4-5. 健康管理について

私は一番おなかをこわすのを警戒していましたが、結局あまりおなかはこわしませんでした。辛い物を食べたあと胃が痛むといったことはありましたが、日本から持参した胃腸薬で回復しました。インド料理はよく過熱してあるものが多いのでそれほどではなかったのですが生ものには気を付けていました。生水は絶対に飲まないようにしていました。浄水器を通してあるかミネラルウォーターであれば問題なかったです。2度ほど皮膚が荒れて皮膚科に行きましたが、その時は処方された薬で治りました。4月末からかなり暑い期間が続き、夜も室温が33℃ほどになっていて寝不足の状態が続きました。結果熱を出して2日ほど寝ていました。エアコンがないので対処するのが難しいですが保冷剤を使うなど何か早めに対策を取っておけばよかったかなと思います。大学には保健室があるので、不安なことがあったらまずは相談するのがいいかと思います。

#### 4-6. 保険、OSSMAの利用について

利用しませんでした。

#### 4-7. 課外活動について

グラウンドでは昼間は体育の授業、夕方は有志によるクラブ活動(サッカー、バレーボール、バスケットボール、ホッケー、クリケット、カバディ、陸上競技)が行われていました。屋内運動場ではバドミントンと卓球が出来ます。(利用時間が男女で分けられています。)ジムとテニスコートもあります。(こちらも利用時間が男女で分けられています。)私はたまにサッカークラブに参加していました。女子寮に住む学生は外出時間が午後6時半までと限られているので、女子学生で放課後グラウンドを使っているひとはあまりいませんでした。

#### 4-8. 学外のコミュニティとの交流について

日本人も外国人もあまりいないのでそういったコミュニティに参加する機会はありませんでした。フィールドワークで農村を訪れたこと以外は学外コミュニティとの接点はほぼなかったです。私はたまたま友人の友人がコインバトルに居たためその友人つながりでは交流はありましたが、大学以外に知り合いがいないと学外コミュニティと交流するのは難しいかと思います。

## 4-9. 日本から持参してよかったもの

日本食はほとんど手に入らないので味噌、だし、醤油、インスタントラーメンなどは役に立ちました。カレーもあって良かったです。お箸と菜箸も役に立ちました。個人的には洗濯した靴下などを干すピンチハンガーは便利でした。文房具はインドでほとんど手に入りますが、使いやすさは日本の物の方が格段にいいです。薬も胃腸薬、風邪薬、頭痛薬、解熱剤などは持っていくといいと思います。化粧品も自分に合ったものを持って行ったのでそれによるトラブルはあまりありませんでした。屋外は交通量が多くバイクに乗ったりすると粉塵がもろに顔にあたるので伊達メガネとマスクも役に立ちました。折り畳み傘も雨だけでなく日傘にもなるのもって行って良かったです。日本語の教科書もあると授業の復習などに便利です。

## 4-10. 日本から持参したが不要だったもの

ノートやファイルは現地で十分購入可能でした。洋服は週末しか着なかったのが現地で服を購入するつもりなら数着でいいと思います。クルタなどはかなり安く手に入ります。

## 4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

インドの人はフランクに話しかけてくれますが、上下関係は日本同様しっかり守ります。特に教授に対しては礼儀正しく接した方がいいです。ヒンドゥー教で左手は不浄とされているので物の受け取り、特に食べ物は右手を使った方がいいです。インドの人は電話を好みます。SMSやメールだと返事がなかなか返ってこないこともあるので急ぎの用事などは電話をした方がいいです。

## 4-12. 余暇の過ごし方

## 旅行

【マドゥライ(観光)】2017年9月(2日間)、約1万円  
 【チェンナイ(観光)】2017年10月(4日間)、約4万円  
 【ポンディチェリ(観光)】2017年12月(3日間)、約3万円  
 【スリランカ(観光)】2017年12月(9日間)、約5万円  
 【コチ(観光)】2018年2月(1日間)、約5000円  
 【チェンナイ(観光)】2018年3月(4日間)、約3.5万円  
 【コチ(観光)】2018年4月(2日間)、約1万円  
 【ムンバイ・プネ(TOEIC観光)】2018年5月(10日間)、約5万円  
 【デリー・アグラ(観光)】2018年6月(7日間)、約5万円  
 【マドゥライ(観光)】2017年9月(2日間)、約1万円

その他 \* 気分転換やストレス発散法など。

大学構内は夜でも比較的安全なので、ランニングをしたりサッカーに行ったりしていました。ショッピングモールが近くにあって、映画館もたくさんあるので、映画を見るのも良かったです。最近になっておしゃれなカフェやアイスクリーム屋さんが出来たのでそこに行って甘いものを食べたりもしました。インドのSIMカードは1日1GB以上使えるコースが多いのでWi-Fiがなくても動画などは結構見られました。私はYoutubeを見たり友達から映画をパソコンに入れてもらったりしてみました。動画配信サービスを利用するのもいいかと思います。ただ日本でしか使えないサービスもあるので注意が必要です。音楽を聴いたり家族や日本の友達と電話したりもしました。料理もインド料理の作り方を教えてもらって自分で作ってみると結構楽しかったです。友人とは週末しか遊びに行けませんでした。それもいい気分転換になりました。

## 5. その他

### 5-1. 留学先大学について

タミルナドゥ農業大学は農業分野のコースを全般的にカバーしているので農業分野に興味がある人は恐らくほぼ自分のやりたいテーマにあったコースが見つけれられると思います。個人的にはこの大学で講義を聞いて新たな知識を増やすというよりはフィールドワークや研究などインドでしかできないことをする方がいいのかと思います。授業はタミル語が使えるようにならないと理解するのが大変で、試験も結構厳しいです。学内の設備はやはり日本の大学から比べると不便な点も多いですが、先生たちは協力的なので困ったことがあったら相談することはできます。留学生は少なく私のように交換留学する人はほとんどいないのでそれ専用のプログラムはなく、基本的にインド人学生と同じ環境で勉強することになります。留学生へのサポートはあまり充実していませんがその分困難を自分で解決する力はずっとあります。

### 5-2. 留学希望者へのアドバイス

当たり前のことですが留学先では留学先のルールや慣習に従わなければいけません。ただ、日本とあまりに違う制度に戸惑うことはものすごく多いと思います。インド、特にこの大学は学生への制約が多いので息苦しく感じる人が多いと思います。何をするにも許可を得る必要がありますしそれには時間がかかる、寮のルールも日本の寮に比べると厳しくて自由がないように感じるというのが私が一番この留學生活で辛かったことです。制度を変えるのはむずかしいのであらかじめこういうものだと頭に入れて行けば少しは心の準備ができると思います。また自分がやりたいことが定まっていればそれを軸に多少の困難は乗り越えられると思います。日本より...と比べ始めると不便なことも多く嫌なところだけが見えてしまいが、その時点で自分は日本ではできない体験をし、インドを満喫していると前向きに考えてください。変えようのないことを自分のせいにして落ち込む必要はないです。インドの人は優しくフレンドリーで英語が話せない人でも笑顔で接してくれます。協力してくださる方々への感謝や人の温かさを人に頼らないと生活できないインドではさらに感じられると思います。違いを楽しんでたくさんの人とつながってそこでしかできない体験をしてください。

### 5-3. 留学を終えて

10か月は長いようで短かったです。途上国の農村開発に興味を持ってから初めて実際にインドの農村に行き調査をできたというのは私にとって本当に大きな経験になりました。ただ、この調査自体はあまり満足できるものではなく、その調査を通じて自分に足りないことにもたくさん気づかされました。研究の難しさも知りました。もっと勉強して、また研究のノウハウを身に付けてさらに良い研究をしたい、もっと農村の実態を正確に反映して農村の状況を伝えられるような調査をしたいという思いが強くなりました。今後は留学前から考えていた通り大学院に進学して勉強を続けたいと思います。大学院でやりたいこともインドに行ってさらに明確になってきたと感じています。正直10か月もインドで、しかも初めての海外長期滞在中で、本当に最後まで生活できるのかということを留学前は考えていましたが、結果こうして留学を終えることができ、そこは自信になりました。自分が海外で勉強あるいは働くことに対して前向きに考えられるようにもなりました。正直ちょっとしたことでめげないタフさは身に着いたと思います。英語も留学前よりは恐れずに使えるようになって、たくさんの人と英語で交渉した経験は自分を精神的に強くしたと思います。大学院で、あるいは就職してからまた海外に出たい、途上国の農村開発に貢献したいという思いは強くあるので、その目標につながるよう勉強していきたいです。この留学でお世話になった方々には十分なお礼が出来なかったので自分の成長を通して恩返しできればとも思っています。直近では大学院入試と卒論が近づいていて、他の人と比べると遅れをとっているのもそこは少し心配ですが、目の前にあるやるべきことを1つずつこなしていきたいです。私が留学するにあたってサポートしてくれた家族、千葉大学およびタミルナドゥ農業大学の先生方、職員の方々、友人に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。